

令和7年度事業報告（概要）

1 総括

<組織運営・内部管理>

- 法人全体として、「質の高いサービスの提供」、「人材育成と働きがいのある職場づくり」、「地域に貢献する施設づくり」、「経営の基盤強化・健全化」の方針のもと経営に取り組んだ。
- 令和6年3月に策定した「愛媛県社会福祉事業団第2期中期経営計画（5年間）」に基づき、法人全体が連携して、計画の4つの柱（目標）である「障害福祉サービスの総合的展開」、「優秀な人材の確保」、「地域の福祉課題への取り組み」、「健全な経営の維持・管理」に取り組んだ。
- 社会福祉充実計画として、以下の事業を実施した。
 - ・ 職員処遇の改善
 - ・ パラスポーツの普及・推進
 - ・ 障がい者の芸術・文化支援活動
 - ・ 障がい者雇用の強化推進
 - ・ 利用者等の安全・安心推進
 - ・ 介護・支援現場における情報共有システムの試行的導入
 - ・ 相談スペース及び事務局執務スペースの拡充
- 全国社会福祉協議会が開発した「福祉職員キャリアパス対応生涯研修」をベースとした階層別研修や施設長・管理職セミナーなどを実施し、職員の資質向上に取り組んだ。
- 全国的に福祉職員の離職率が高く採用も困難化している状況を踏まえ、採用のアプローチ手法や効果的な広報手段などを検討し活動するリクルーター体制を整備し、優秀な人材の確保に努めた。
- 令和7年度から新たに運用開始した給与・人事管理システムにより、給与明細・年末調整の電子化を行うなど、事務処理の省力化・効率化を図った。また、勤怠管理システムについて、令和8年度中の運用開始に向けて業者選定等の準備を行った。
- 最低賃金の改定や物価高騰を踏まえ、令和7年12月に非正規職員の給与改善を実施するとともに、令和8年4月1日付けで全職員を対象としたベースアップ等を実施することとした。
- 継続的・安定的な事業運営の確保を図るため、老朽化した施設の建替え等について検討を進めた。

<施設運営・事業部門>

- 直営施設については、地域や関係機関との連携のもと、利用者一人ひとりの障がい特性及びニーズに即した生活支援や訓練など、質の高いサービスの提供に努めるとともに、就労・自立に向けたきめ細やかな相談・支援に取り組んだ。
 - ・ 創作活動・音楽・運動など多彩なプログラムを通じて日中活動の充実を図るとともに、県外旅行や外出支援を積極的に実施し、利用者の生活の質の向上及び社会参加の促進に努めた。
 - ・ 老朽化した設備の更新及び介護機器の導入により、利用者の生活環境を整備し、安全・安心なサービス提供に努めた。
 - ・ 福祉・介護現場における業務改善及び生産性向上を図ることを目的に、プロジェクトチームにより介護・支援テクノロジーの活用について検討を行い、第一弾の取組みとして、令和8年度にインカムを導入することを計画した。
 - ・ 利用者の安全・安心の確保及び職員が安心して働ける職場環境の整備を図るため、直営施設の建物内への防犯カメラ設置及び運用方針について検討した。
 - ・ 居住系サービスである障害者支援施設及び共同生活援助事業所（しげのぶ清流園、しげのぶ清愛園、道後ゆう、どうご清友寮及びいだい清風園）では、令和6年度に設置した「地域連携推進会議」（令和6年度は努力義務、令和7年度より義務化）において会議内容の充実を図り、地域住民への理解促進及び地域との連携強化に一層取り組んだ。

- 直営3施設で実施している就労継続B型事業について、しげのぶ清愛園では水耕ハウスや露地栽培の作付け見直し等により農産物の増産を図った。ぱれっと道後では「感謝祭」・「花楽里マルシェ」の開催等により、地域における認知度向上を図った。いだい清風園では、印刷部門と木工部門が共同でアクリルスタンドを制作し、販路拡大に取り組んだ。また、「ほほえみフェスタ」では、3施設が連携して開発した新商品（鯛まん）を販売し、好評を得るなど、工賃の確保・向上に努めた。
- 指定管理施設については、公の施設の設置目的を踏まえ、安全・安心・快適な施設管理に努めるとともに、老朽化した設備及び備品の更新を行い、利用環境の整備を図った。また、地域に親しまれる施設を目指し、多様化するニーズに柔軟に対応するなどサービス向上に取り組んだ。
母子生活支援センターの「産前産後ケアステーションえひめ」（さんケア）において、令和7年9月より愛媛助産師会へ委託し妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOSえひめ」を開設したほか、SNS広告の活用やドラッグストア等での啓発カード配布により、認知度向上に努めた。
また、県の予算措置により、身体障がい者福祉センターの「吸収冷温水機ガス遮断弁交換工事」、障がい者更生センターの「食堂空調機器修繕工事」、及び両施設の「非常用発電機バッテリー取換工事」等を実施し、より安全に利用できる環境整備が行われた。
- 公益事業については、就職や職場定着が困難な障がい者に対するきめ細やかな支援や就労促進に努めたほか、県内のパラアスリートの活動支援や滋賀県で開催された全国障害者スポーツ大会への本県選手団109人（選手55人、役員54人）の派遣など、パラスポーツを推進するとともに、芸術文化活動を行う障がい者の相談支援や支援人材の育成、作品発表の機会創出などすそ野の拡大に努めるなど、一般の方との相互理解、障がい者の自立と社会参加の促進に取り組んだ。

<その他>

- 8月に開催された松山野球拳おどりに、令和5年度より3年連続で「愛媛県社会福祉事業団”ほほえみ連”」として参加した。本番当日は悪天候により利用者の参加は見合わせたが、職員有志が振付・装飾・練習方法等に創意工夫を凝らすことで、利用者の楽しみ・社会参加の創出と施設間の連携強化を図ることができた。

2 法人運営

(1) 理事会の開催

第1回（令和7年4月1日）

- 常務理事の選定について

第2回（令和7年6月3日）

- 令和6年度事業報告並びに収支決算について
- 令和7年度収支補正予算について
- ノート型パソコンの賃貸借に係る落札業者決定及び契約の締結について
- 社会福祉充実計画の変更について
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団定款施行細則の一部改正について
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団経理規程の一部改正について
- 定時評議員会の招集について
- 評議員選任等委員会の招集について
- 評議員候補者の推薦について

第3回（令和7年6月19日）

- 理事長及び常務理事の選定について

第4回（令和7年8月5日）

- 令和7年度収支補正予算について

(報告事項)

- ・ 理事長及び常務理事の職務執行状況報告について

第5回（令和7年9月12日）

- 評議員会の招集について

第6回（令和7年10月3日）※決議の省略により実施

- 愛媛県障がい者スポーツ協会事務局における全国障害者スポーツ大会派遣に係る契約及び支出命令について

第7回（令和8年3月24日）

- 令和7年度収支補正予算について
- 令和8年度事業計画並びに当初予算について
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団総合職職員給与等支給規程の一部改正について
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団特定職職員給与等支給規程の一部改正について
- 役員等賠償責任保険の契約内容について
- 施設長の選任について

(報告事項)

- ・ 理事長及び常務理事の職務執行状況報告について

(2) 評議員会の開催

第1回（令和7年6月19日）

- 令和6年度収支決算について
- 社会福祉充実計画の変更について
- 役員の選任について

(報告事項)

- ・ 令和6年度事業報告について
- ・ 令和7年度収支補正予算について

第2回（令和7年9月13日）

- 理事の選任について

第3回（令和7年3月28日）

- 理事の選任について

(報告事項)

- ・ 令和7年度収支補正予算について
- ・ 令和8年度事業計画並びに当初予算について

(3) 評議員選任等委員会の開催

第1回（令和7年6月3日）

- 評議員の選任について

第2回（令和8年3月26日）

- 評議員の選任について

(4) 監査

令和7年5月20日 監事監査

3 施設の経営

- 施設数 14 施設（直営施設 7 施設、指定管理施設等 7 施設）
- 職員数 総合職職員 138 名 特定職職員 65 名 嘱託職員 14 名（R8.3.31 現在）
- 施設の定員等

施 設 区 分		サービス / 定員	
直営施設	しげのぶ清流園	生活介護	55 名
		施設入所支援	40 名
		短期入所	5 名
		放課後等デイサービス	5 名
	しげのぶ清愛園	生活介護	44 名
		就労移行支援	休 止
		就労継続支援（B 型）	20 名
		施設入所支援	40 名
		短期入所	5 名
		共同生活援助	18 名
		障害児タイムケア	—
	道後ゆう	生活介護	35 名
		自立訓練	15 名
		就労移行支援	10 名
		施設入所支援	40 名
		就労定着支援	4 名
	ほほえみ工房ぱれっと道後	就労継続支援（B 型）	40 名
	どうご清友寮	共同生活援助	37 名
	福祉工房いだい清風園	生活介護	40 名
		就労継続支援（B 型）	15 名
		施設入所支援	50 名
	ほほえみ特定相談支援事業所	—	
指定管理施設等	愛媛県立愛媛母子生活支援センター	母子センター17 世帯 妊産婦等生活援助事業 3 世帯	
	愛媛県身体障がい者福祉センター	—	
	愛媛県障がい者更生センター （道後友輪荘）	（宿泊）45 名	
	愛媛県視聴覚福祉センター	—	
	えひめ障がい者就業・生活支援センター	—	
	愛媛県障がい者スポーツ協会事務局	—	
	愛媛県障がい者アートサポートセンター	—	

4 各施設の実施（概要）

○ しげのぶ清流園

- ・ 医療的ケア体制の整備を目指し、介護職員が喀痰吸引等実地研修を受講したほか、看護師が医療的ケア教員講習会を受講した。
- ・ 老朽化した特殊浴槽を更新し、利用者の安全確保と快適な入浴支援の提供に努めた。また、温冷配膳車を更新し、適温での食事提供による利用者満足度の向上に努めた。
- ・ 介護専門学校からの実習の積極的な受入れ、交流会の実施、就職活動中の学生の施設見学の受入れを通じて、障がい福祉への理解促進を図った。
- ・ パンフレットをリニューアルし、関係機関等への配布及びPRを行い、利用者確保に努めた。

○ しげのぶ清愛園

- ・ 強度行動障害支援者養成研修や関係するセミナーの受講により、支援対応力の強化を図った。また、新たに購入した療育用具を活用し、重度障がいのある利用者支援に取り組んだ。
- ・ 貸切バスを利用した県外旅行や園外での新年会を実施したほか、利用者のニーズに応じたグループ外出及び個別外出を行い、日常生活の質の向上に努めた。
- ・ 就労継続支援B型事業では、水耕ハウスや露地栽培の作付けの見直し等により野菜の増産を図った。また、熱中症対策として、職員及び利用者に対し、研修の実施及びマニュアルを整備した。
- ・ 利用者支援記録及び預り金管理ソフトウェアの導入等により、作業時間の短縮とデータの有効活用による業務の効率化を推進した。

○ 道後ゆう

- ・ 排泄サポートリフトの導入により、利用者の安全確保と職員の身体的負担軽減を図った。
- ・ 生活介護事業においては、車いすダンス等の活動メニューを充実させ、利用者の選択の幅を広げた。また、製作した作品の展示会・コンテスト応募や地域イベントの情報提供を通じ、意欲向上と社会参加の促進を図った。
- ・ 機能訓練においては、訓練機器の導入により身体機能の維持・向上を図り、地域移行の推進に努めた。また、就労移行支援事業と連携し、パソコン技能の習得や清掃作業等の就労訓練もあわせて実施した。
- ・ 就労移行支援事業においては、画像編集ソフトの活用と個々のニーズに応じた訓練プログラムの充実を図り、利用者が希望する職場への就職に繋げた。

○ ほほえみ工房ぱれっと道後

- ・ 清掃メンテナンス科では、県有施設から除草作業業務を新たに受託するなど、増収に努めた。
- ・ クリーニング科では、企業からの新規受託により増収に繋げるとともに、クリーニング技術の向上を図り、品質向上に努めた。また、老朽化した温水供給ボイラーを更新し、安定した業務環境の整備を図った。
- ・ 販売サービス科では、感謝祭（春・秋・冬）・花楽里マルシェの実施、地域行事への出店を通じて、地域住民を中心とした施設の認知度向上に努めた。また、ほほえみフェスタでは、本事業団の就労継続支援B型事業所が連携して開発した新商品（鯛まん）を販売し好評を得た。

○ どうぞ清友寮

- ・ 利用者個々の年齢や特性、希望する生活スタイルに応じた就労支援・余暇活動・健康管理等の相談・支援を提供し、地域での安心した日常生活の安定を図った。
- ・ 道後喜多町町内会主催のイベントや利用者交流会への積極的な参加を通じて、利用者の社会参加・地域交流の機会確保に努めた。
- ・ 利用者の高齢化に伴い個別の健康管理の重要性が増していることから、特定健康診査や健康

診断の受診を促し、受診結果に応じた支援を提供した。

○ 福祉工房いだい清風園

- ・ 印刷部門と木工部門が共同でアクリルスタンドを開発し、道後温泉や三越等での販売等、販路拡大に努めた。
- ・ 木工部門では、松山大学が実施する「Zoo Project」とコラボし、とべ動物園で販売する木製キーホルダーを共同製作するとともに、障がい者福祉への理解促進及び利用者工賃の向上を図った。
- ・ 利用者の高齢化・重度化に伴う医療的ケアの必要性に対応するため、職員に喀痰吸引研修を受講させ、重度障がい者が安全・安心に継続利用できる体制整備を行った。また、個別昇降テーブルを導入し、安心して食事できる環境整備に取り組んだ。
- ・ 大阪・関西万博をはじめ県内外への日帰り旅行や利用者個別の外出支援を積極的に実施するなど、多様な外出機会を提供し、利用者の生活の質の向上に繋げた。

○ ほほえみ特定相談支援事業所

- ・ 法人内施設と連携してグループスーパービジョンを実施し、発達障がい者の就労面及び生活面の支援に関する知識や技術の向上に繋げた。
- ・ 地域社会において課題となっている障がい者福祉に関する様々な相談に応じ、必要な情報提供と助言及び総合的な関係機関との連絡調整を行った。

○ 愛媛県身体障がい者福祉センター

- ・ 「ほほえみフェスタ」の開催にあたっては、オープニングに地域の小学校の吹奏楽演奏を実施するなど、多くの地域住民との交流を図った。また、法人内施設利用者を対象とした「ほほえみスポーツ大会」を参加者が一堂に集う形式で開催するとともに、予選会の開催方法を工夫したことで、より多くの利用者が楽しめる有意義な大会となった。
- ・ 老朽化した非常用発電機バッテリー及び吸収冷温水器ガス遮断弁の交換工事が県により実施され、電気設備を安定して利用できる環境が整った。
- ・ ICTサポートセンターでは、「ぱれっと道後 花楽里」において特別支援学校の生徒等を対象にICT機器（遠隔操作ロボット）を活用した接客体験等の就労支援を行った。

○ 愛媛県立愛媛母子生活支援センター

- ・ 関係機関が行う連絡会議等への参加や個別のケースに応じて県や市町等の関係機関との一層の連携を図った。また、当施設の活動や情報を外部に向けて発信するため、ホームページの活用を進めた。
- ・ 新たに朝食支援（もぐもぐの会）を開始し、食育及び生活リズムの改善を図るとともに、親子行事・季節行事の内容を見直し、週末託児や調理活動、子ども会等、様々な行事をほぼ毎月実施した。
- ・ 県の委託事業「産前産後ケアステーションえひめ」（さんケア）の運営においては、4人の専従職員を配置し、専用居室を1室増やし3室とした。また、「産前産後ケアステーションえひめ」（さんケア）において、令和7年9月より愛媛助産師会へ委託し妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOSえひめ」を開設したほか、SNS広告の活用やドラッグストア等での啓発カード配布により、認知度向上に努めた。

○ 愛媛県障がい者更生センター

- ・ 記念プラン（長寿・初節句のお祝い等）や特別支援学校同窓会プランの展開、松山ユニバーサル・ツーリズム推進事業と連携した修学旅行の受け入れなど多方面への営業に努めた結果、宿泊・会議等の利用者数及び収入額ともに増加した。また、県の「愛顔の健康づくり応援店」

への登録による健康食の提供や松山市の「3010 運動」への協賛など、サービス向上にも積極的に取り組んだ。

- ・ 非常用発電機バッテリーの取替及び食堂空調機器の修繕工事等を実施したほか、全館LED化による電気使用量の削減、老朽化した食堂・宴会用テーブル・椅子の更新等により利用者の利便性向上を図るとともに、福祉関係団体機関紙への広報掲載等を通じて利用促進に努めた。

○ 愛媛県視聴覚福祉センター

- ・ 大規模災害時の支援体制検討の一環として、東温市の避難行動要支援者支援班会議に参加し、視聴覚障がい者の特性や災害時における情報取得の支援方法について意見交換を行った。
- ・ 難聴児支援体制については、関係連絡会への参加を通じて「難聴児支援センター」の支援内容・業務内容・委託先等について協議を行い、令和8年7月の当センター内設置に向けて準備を進めた。

○ えひめ障がい者就業・生活支援センター

- ・ 地域における関係機関とのネットワーク形成のため、行政機関、特別支援学校及び福祉事業所等との交流会議を開催するとともに、障害者雇用企業間のネットワークの構築を図るため、企業担当者との交流会や勉強会、地域の就労支援機関を対象とした専門的分野（愛媛障害者職業センター等）の有識者を講師としたセミナーを開催した。
- ・ 県内の就労支援機関・行政機関・特別支援学校等を対象に、精神障がい者や発達障がい者のアセスメントツール活用に関する基礎講習・事例発表のほか、障害福祉サービス事業の制度改革に向けた情報共有セミナーを開催した。

○ 愛媛県障がい者スポーツ協会事務局

- ・ 第17回愛媛県障がい者スポーツ大会については、精神バレーを含む選手1,099名が参加した。また、滋賀県で開催された「わたSHIGA輝く障スポ2025」に、愛媛県選手団109名（選手55名、役員54名）を派遣し、金14・銀10・銅11の合計35個のメダルを獲得する好成績を収めた。
- ・ パラアスリート支援では、東京2025デフリンピックに愛媛県ゆかりの選手4名（うち3名が支援補助金活用選手）が出場したほか、1名が陸上競技監督として参加するなど、世界を舞台に活躍する本県パラアスリートの支援に貢献した。

○ 愛媛県障がい者アートサポートセンター

- ・ 障がい者アート展では、応募者・観覧者向けの取り組みとして、作品応募の流れや県美術館南館のアクセシビリティに関する動画を作成し、ホームページ及びInstagramに掲載した。また、対話型鑑賞や美術ワークショップを新たに実施し、障がいのある方々に鑑賞・創造の機会を提供した。
- ・ 障がいのある方の舞台芸術活動の促進と裾野拡大を目的に、ワークショップ及び成果発表会を実施した。令和7年度は実施地域をこれまでの中予から東予・南予にも拡大し、参加促進と周知を図った。
- ・ 新たに「ほほえみアート展」を実施し、本事業団施設の利用者作品42点を展示した。「ほほえみフェスタ」と会期を合わせたことで、多くの利用者や地域の方々に鑑賞いただき、好評を得た。